#12

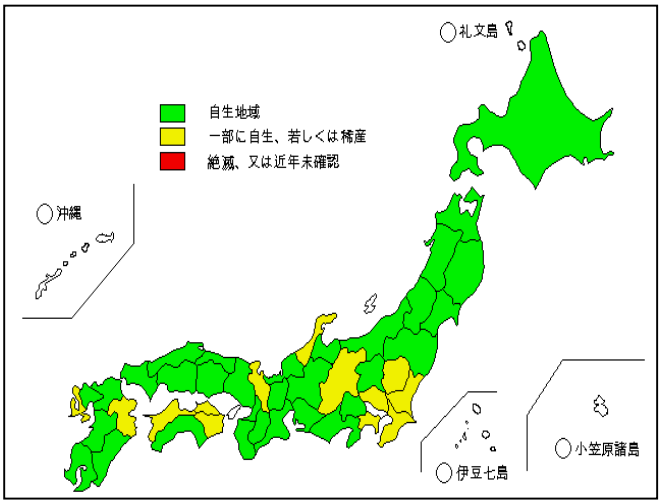
アケボノシュスラン

Goodyera foliosa Benth. var. laevis Finet

アケボノシュスラン（愛知県奥三河　09.9/21）

沖縄を除く全国の薄暗く湿った低山帯に自生する小型の地生蘭です。渓流沿いの杉林などに群生し、草丈は花茎を入れてもせいぜい10cmほどで、9月頃に花茎を垂直に延ばし桃色の小さな花を複数輪咲かせます。小さな蘭ではありますが、草姿に対し花は比較的大きく見ごたえがあり、また白に近い桃色はまさしく曙色でシュスラン属の中では非常に観賞価値の高い蘭です。

自生地は木漏れ日程度の暗さで増水時には水に使ってしまうほどの沢沿いを好み、苔生す岩盤や腐葉土に根を広げ大抵数百株の大群落を形成しています。株増殖が旺盛な為か実生による分布域拡大は苦手なようで、ある場所には群落があり、ない場所には1株もないというような極端な蘭です。このような特性の為、たとえ現在ある程度の自生量があろうとも、ダムや道路開発や住宅開発、又は業者による大量盗掘などで瞬時に自生地が消滅してしまう危険もあります。



沖縄を除く全国の冷涼な山地に自生します。

アケボノシュスラン（愛知県奥三河　09.9/21）

個体数の割には花つきが悪く、花をつける株は群落の中でも数%の大きな株のみです。開花後はその株は枯死しますがランナー場に伸びた地下茎から脇芽を展開し、また新たな株を形成していきます。 種子の結実率は比較的良い方で、9月に受粉して11月にはもう飛散してしまいます。

花期以外は緑の葉を展開するだけなので非常に目立たたず、山で出会っても、本種を知らない方が蘭だと気付くことはまずありません。

小型で湿気を好むことから、渓流沿いのハイキングコース上などにも見られますので、登山の方に踏まれていることも度々あります。

Document and photo by LittleFlower 2009

品揃えの良い山野草店などではたまに見かけますが、本格的な商用生産はされていない為入手はやや困難です。（野草店が独自に増殖しているか、趣味家の方が増やして野草店に売りに出しているか、盗掘品かのいずれかがほとんどです）

栽培自体は野生蘭の中では容易な部類に入ります、小鉢に山ゴケを盛り付けて植え込んでも良いですし、ミズゴケを盛り上げて植えてもokです。直射日光に当てず、潅水管理だけをしっかり行えば元気に成長します。但し花つきはあまりよくありません。日本庭園風の庭をお持ちでしたら小さな池のほとりに地植えにしても良く育ちます。

増殖も容易で、長いランナーの節々から新芽を展開します。ミズゴケの中にランナーを切って植え込む根伏せもできますし、挿し芽でも増やせます。花の終わった株からは自然に脇芽もでますので、環境さえ整えてやれば年に2～3倍に増やすことも可能です。

アケボノシュスラン（愛知県奥三河　09.9/21）

アケボノシュスラン（愛知県奥三河　09.8/1）

アケボノシュスラン（愛知県奥三河　09.9/6）

アケボノシュスラン（愛知県奥三河　09.9/21）

アケボノシュスラン（愛知県奥三河　09.9/21）

Document and photo by LittleFlower 2009